

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):理学部

参加プログラム: Vancouver Summer Program 派遣先大学: the University of British Columbia

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 5.民間企業(業界:金融、IT)

<p>派遣先大学の概要 ブリティッシュコロンビア州のバンクーバーにある州立大学</p>
<p>参加した動機 大学院での留学を検討するのに参考になると思ったから</p>
<p>参加の準備</p> <p>① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) あたりまえですが、手続きは日程に余裕をもって行う必要があると思います。</p> <p>② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザの手続きは必要ありませんでした。</p> <p>③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 必要ありませんでした。</p> <p>④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 東京大学で加入が義務付けられているもののみ加入しました。</p> <p>⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 試験日程をずらしてもらいました。学科には出発前に渡航届を提出しました。</p> <p>⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 東京大学が提供している Special English Lesson を受講しました。</p> <p>⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 箸とサンダル、日常使う鞆は持っていくと便利だと思います。</p>
<p>学習・研究について</p> <p>① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 政治の授業と経済の授業を約一か月間受講しました。二つともサマープログラムということで予習、復習はほとんど求められませんでした。東京大学で政治や経済の授業を受けたことがあまりないですが、やはりディベートが多かったと思います。どちらの授業でも日本が出てくることがあり、客観的に日本について考えることができたと思います。今年は全体で1400人ほど参加したそうですが、90%ほどは中国の学生でした。また、99%はアジアの学生でした。</p> <p>② 学習・研究面でのアドバイス 授業内容は難しくないのですこまで苦労しないと思います。ほかのパッケージの友人に聞いたところ、グループでのプレゼンテーションが最終課題として課されることがおおいようです。準備に積極的に参加することで友人が増えると思います。</p> <p>③ 語学面での苦労・アドバイス等 周りが中国の人ばかりで最初は中国語のアクセントが聞きづらかったです。しかし、少しすればなれます。いわゆるカタカナ英語でもそれなりに通じました。発音よりもきちんと言いたいことを伝える能力の方が大事だと思います。</p>
<p>生活について</p> <p>① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 寮に宿泊しました。一区画6人で一人ずつ個人の部屋がありました。東京大学から行ったもう一人と同じ区画でした。同じ大学の人は同じ区画に配置されるようです。</p> <p>② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 気候はとても過ごしやすかったです。日はすごく長かったです。交通は主にバスを利用しました。ダウンタウンまでは</p>

バスで 30 分くらいかかります。食事は寮に料理をする設備があったので料理をしたり、大学内で食べたり、時間があるときはダウンタウンまで行ったりしました。支払いは基本的にクレジットカードでした。どの店も VISA は使えました。物価は東京よりも基本的に高いです。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はよかったです。盗難なども聞きませんでした。ただ、ダウンタウンには治安が悪いブロックもあると聞きました。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空機代: 約 16 万円

授業料: 4200 カナダドル

教科書代: 授業料に含まれていた

家賃: 授業料に含まれていた

食費等: 約 10 万

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学が提供している奨学金を受給しました。額は 16 万でした。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週に二回ソーシャルアクティビティといって学外に行く機会がありました。また、最後の方にスポーツデイがありました。また、毎週木曜日はスタディナイトといって UBC の学生に勉強のサポートをしてもらう機会がありました。私は勉強のサポートは受けませんでした。他にも UBC での生活を聞いたり、いっしょにスポーツをしたりしました。そこで知り合った UBC の学生と何回かプログラム外で食事に行きました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面のサポートはありませんでしたが、バンクーバーの人は部外者に寛容なのであまり苦労しませんでした。学習面は前述のスタディナイトのほか、オフィスアワーもありました。生活面のサポートは週 1 回のベッドメイキングと週 2 回の共用スペースの掃除がありました。精神面のサポートはありませんでしたが、1 か月なので心配ありません。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館に入ることはできましたが、借りることはできませんでした。スポーツ施設はプール、体育館、スケートリンク、テニスコートなどを利用することができました。利用料は基本的に無料でした。(スケート靴を借りる場合などは料金が発生します。)食堂はフードコート形式のもののみありました。一応日本料理もありましたが、カナダまたは中国風にアレンジされていました。教室内は wifi を利用できましたが、部屋では有線 LAN のみ利用できました。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

中国の学生が多かったので、中国についての理解を深めることができました。客観的に日本について考えることができたのもよい経験だと思います。英語学習についても、今後どのように学習をすればよいかはわかった気がします。海外の大学で学ぶとはどういうことかを身をもって経験することができました。実際に現地で学ぶ留学生に話を聞くことができ、留学に対する精神的ハードルがだいぶ低くなったと思います。また、日本で学ぶことと海外で学ぶことのメリット、デメリット両方がよりはっきりわかるようになりました。全体として、東京大学で学んでいるだけでは出会わないような人や価値観に出会うことができ、きっと今後の進路を考える際のよい参考になると思います。

③ 参加後の予定

再度海外で学びたいと思うようになりました。奨学金などを調べてみたいと思います。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

バンクーバーは気候的にも過ごしやすいです。また、移民が多い町ということもあって多様性に寛容です。少し英語ができなくても問題ありません。初めて留学をするという人でも問題なく参加することができると思います。ただ、参加者のほとんどが中国の学生であることは覚悟しておきましょう。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

とくになし

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

メールに添付します。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文科一類

参加プログラム: Vancouver Summer Program (VSP)

派遣先大学: プリティッシュコロンビア大学(UBC)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

バンクーバー市西端に位置し、常にカナダの大学のトップ3に入るカナダ屈指の州立総合大学。自然に囲まれた広大なキャンパスを有する。

参加した動機

海外大学での授業内容や授業方法がいかなるものかを知りたく、またアジアからの移民が多いバンクーバーにおいて彼らがどのように社会に適合しているのかを自分の目で確かめたかったため。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

約一か月おきに UBC から直接メールが届くので、その指示に従えば問題ありません。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍ならば特別な申請は必要ありません。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特にしませんでした。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

VSP の参加費にカナダの保険が含まれています。また、東大から指定される保険に加入することになります。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教養学部のテストは2つしかなく、共に繰り上げ試験だったので教養学部には特別な申請はしていません。

法学部の法社会学のテストに関しては追試を受けることになりました。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

一年生の時に受けた IELTS の結果を利用しました。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

クレジットカードでの支払いが中心なので、クレジットカードは用意しておきましょう。ただし、バスチケットの購入など現金しか使えない場合があるので、ある程度現金を持参する必要があります。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

政治学の授業では先生が講義の後学生に問題を提起し、学生は賛成反対に分かれて議論するというものでした。

尚、先生はグループに分かれて行うプレゼンテーションに重きを置いていました。

経済の授業は講義が中心であったが、最後の授業ではグループプレゼンテーションを課せられました。

② 学習・研究面でのアドバイス

あらゆる専攻の学生が参加していることを考慮したうえで行われる授業なので専門知識がなくても問題はありませぬ。もし、学習面で問題があれば現地学生のボランティアを頼ればよいと思います。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

全体で1000人以上いる参加者のうちほとんどが中国からの生徒なので、中国語がわかるとプレゼンの準備がやりやすいかもしれません。英語で苦勞することはありませんでした。

生活について

① 泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

UBC が用意してくれた Walter Gage に泊まりました。6人で一部屋をシェアし、各人にロック付きの個室が割り当てられます。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏は晴れの日が多く、日が落ちるのは9時過ぎです。朝は肌寒いので何か羽織るものがあるとよいでしょう。大学にバスターミナルがあり、どこか行くときはバスを使います。

③ 機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は基本的にはいいですが、ガスタウンとチャイナタウン周辺は治安が悪いので気を付けましょう。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム費用(授業料、家賃、保険料や教科書代込み) : 約40万円 (4200CAD)

食費 : 約8万円

航空賃 : 約17万円

娯楽費 : 約3万円

計: 約68万円

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
16万円(卒業生有志支援サマープログラム)

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
学部が提供してくれた学外イベントに参加したり、バンクーバーから近いビクトリアやシアトルを訪ねたりしました。

派遣先大学の環境について

① 加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

学習をサポートする現地学生ボランティアや生活全般をサポートするコーディネーターがいます。サポート体制で不満に思うことはありませんでした。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館やスポーツ施設は自由に使うことができます。

Wi-Fiは建物の中であれば使うことができます。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

大学では中国の学生と接することが多かったのが彼らの文化、物の考え方や中国の国内事情の一端を知ることができました。また、大学外では現地の住民と会話したり現地の生活様式を学んだりしていく中で留学前にあったカナダのイメージとは異なるところも垣間見ることができました。また、少なからず中国の学生や現地の人に日本や日本人のイメージについて聞かされることがあり、カナダや中国と比較しながら日本の良い面や両国に見習ったほうがよい点を知ることができたと思います。

②参加後の予定

法学部での勉強に邁進していきたいと思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学した際には現地の人をはじめいろんな人と積極的に関わりたいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。